

## 教育講演「勉強をする子に勇気づける」

角田佳子 (千葉)

### 要旨

#### キーワード :

2009 年高知総会において「勉強をする子に勇気づける」というテーマで教育講演をしました。この講演の目的は、「アドラー心理学に基づく育児を知らない方を対象とした講演を工夫すること」です。

当日発表した台本を投稿します。ご活用いただくと嬉しいです。

台本は約 30 分の講演内容です。枠内には使用したスライドを文字の部分のみ掲載しました。ロールプレイの部分(斜体)は母親役を演者が行い、子供役を別の方をお願いしました。

### 0. 導入

これから「勉強をする子に勇気づける」というテーマでお話をさせていただきます。子どもが、「勉強をする方向に勇気づける」「勉強するように勇気づける」ということです。

今日お伝えする内容は、アドラー心理学に基づく育児学習プログラムの考え方がもとになっています。アドラー心理学が「子どもの勉強」についてどんな風に考えているのか、子どもを勉強する方向に勇気づけるというのはどういうことなのか、をご紹介しますと思います。

### 1. 勉強の目的

「勉強をする子」いいですね～。なってほしいですね～。でもその前にまず、考えてみてほしいことがあるんです。

どうして、「勉強する子」になって欲しいのでしょうか？

子どもの勉強を援助していくには、まず親自身が、なぜ子どもに勉強して欲しいのか、勉強の目的とは何なのか、を考えておくことが大切だと思うんです。

<p>勉強の目的 ～何のために勉強するのか～ 社会に貢献する人になる</p>
--

アドラー心理学では、「勉強の目的」は、「社会に貢献する人になる」ことだと考えます。人は社会、まわりの人々とかかわりながら生きていますよね。ですから、自分のやりたいことをするというだけではなくて、人の役に立つこと、社会に貢献する人になることが人間の幸せになる、と考えています。いかがでしょうか。

「社会に貢献する」と言うと、ちょっと大袈裟に聞こえるかもしれませんが、でも、今の皆さんがそうですよね。お仕事をされている方はお仕事を通じて貢献しておられますし、ご家庭にいらっしゃる方は次世代の子どもを育てる、働く人を支えるという形で貢献されていますよね。みなさんのように社会に貢献する人に育つために、子どもは勉強をするわけです。

もちろん自立をすることか、自分を活かすということも大切だと思います。自立をして自分を活かしながら社会にも貢献していく道を探ること、それに向けて準備をすることが「勉強」ということだろうと思います。

この「何のために勉強をするのか」について、お子さんとお話をされたことはありますか？もしなければ、ぜひ一緒にお話をされることをおすすめします。

勉強って、それ自体楽しいという面もありますが、手段、道具ですよ。勉強をしたその先に何があるのか？何のために勉強するのが見えていた方が、やる気を維持したり努力を続けることがしやすいと思います。

ですから勉強をする子に勇気づけるにはまず、勉強の目的～社会に貢献できる大人になるために勉強する～について親子で話し合う、これが大事になります。

### 勉強をする子に勇気づけるには ①

勉強の目的  
～社会に貢献できる大人になるために勉強する～  
について親子で話し合う

アドラー心理学の野田俊作先生が、「子どもは粘土です」というお話をされたことがあります。子どもはいろんな可能性を秘めているけれども、そのままではまだ何の形にもなっていない粘土のかたまりにすぎない。勉強をして、何ができるのか、何をしたいのか、少しずつ形を作っていくって、やっと社会に役立つ人になっていくんだよ、勉強はそのためにするんだよ、というお話だったと思います。こんなお話を親子ですていくって、ちょっといいと思いませんか？

## 2. 子どもの勉強をどう援助するか ～賞罰を使わない～

勉強の目的について親子でお話ができたとして、では、どうやって子どもの勉強を援助していけばいいのでしょうか？

具体的な例で考えてみたいと思います。こんなお母さんがおられます。

母) うちの透は中学3年生なんですけど、家で全然勉強しないんです。もうすぐ受験だっていうのに、ゲームをして遊んでばかりです。勉強した方がいいんじゃないの？って毎日、口をすっぱくして言っているのに、全然言うことをききません。

はい、どうすればいいでしょう？

お母さんの対応〔その1〕です。

みなさんは、息子の透くんになったつもりで聞いてくださいね。

母「いい加減にしなさいっ！ あなた中学3年生なんですよ！ 受験生でしょう！ そんなに勉強しないでゲームばかりして！」

息子「は〜〜」

母「ど〜するつもりなの？ そんなことじゃ、どこの高校にも行けませんよっ」

息子「わかってるよ〜」

母「ど〜するの、ほんとにもう〜〜。また成績下がるようなら、ゲームなんか没収ですからねっ。本気だからねっ！（プンプン）」

息子「え〜まじい〜？ うっさいなあ〜。言われなくてもわかってるよ〜、勉強すりゃあいいんでしょ、勉強すればっ」

母「何その言い方。そうそう、すればいいのよっ。さっさと勉強しなさいっ」

どうでしたか？

お母さんの対応：その1

もっと激しく叱る（ゲーム没収を予告）【罰】

⇒しぶしぶ…勉強をするようになりました。

お母さんは、もっと激しく叱ることにして、ゲーム没収の予告もしました。透くんは…しぶしぶ家で勉強をするようになりました。「罰」を恐れて勉強をしているみたいです。これは成功でしょうか？ ちょっと透くんに聞いてみましょうね。

演者「ねえねえ透くん、ちょっとい〜い？」

息子「(つまらなそうに勉強しながら、ぶっきらぼうに) な〜にい〜？」

演者「勉強することにしたの〜？」

息子「今だけね〜。お母さんうるさいし、ゲームとられちゃったら大変だからね。前に、大事にした漫画、ほんつとに捨てられちゃったことあるんだよ。もうほんとうちのお母さんってヤダ。仕方ないからね、とりあえず次の試験まではやるよ。あ〜もう、ほんつと、やだな〜〜」

演者「試験が終わったらどうするの？」

息子「そしたらまたゲームだよお〜、当然じゃん。お母さんがまたガーガーいうまでは勉強しな〜い。好きでやってるわけじゃないもん」

演者「あらあら、そうなんだあ〜」

どうも…罰とか、叱るということには、よくない面がありそうです。

**【罰】の望ましくない副作用**

- ① 「罰」がないと勉強しなくなってしまう
- ② 親子関係が悪くなる
- ③ 消極的で意欲を失った「やる気のない子」になっ  
てしまう危険がある

などなど

「①罰がないと勉強をしなくなってしまうです」。透くんが勉強するのは、どうも試験までみたい  
です。効果は持続しないので、ず〜っと罰が必要です。「②親子関係が悪くなります」。透くん  
もお母さんやダって言ってましたよね。「③消極的で意欲を失ったやる気のない子になっ  
てしまう危険があります」。

お母さんの対応〔その2〕です。また、透くんになったつもりで聞いてくださいね。

母「透〜、携帯欲しいって言ってたでしょ〜。クラスで携帯持ってないのなんて俺だけ〜って言  
ってたじゃない〜」

息子「うん…」

母「お父さんと相談したんだけど、毎日ちゃんと勉強して、次の試験で前よりも上がってたら、  
携帯買ってあげようと思うんだけど」

息子「え?? マジ??? なんで?」

母「どう?」

息子「いや、ほしい。勉強、するする、頑張るよ、俺。携帯のためならがんばるっ」

母「うん、約束するから。がんばってねっ」

どうでしたか?

**お母さんの対応：その2**

**ご褒美を奮発（携帯電話） 【賞】**

**⇒大喜びで、勉強をするようになりました**

お母さんは、ご褒美を奮発することにしました。携帯電話です。透くんは…大喜びで勉強をす  
るようになりました。「賞」に惹かれて勉強しているみたいですね。これは成功でしょうか?透く  
んに聞いてみましょうね。

演者「ねえねえ透くん」

息子「なあに? (ごきげんよさそう)」

演者「勉強することにしたの〜?」

息子「うんっ、だって携帯買ってもらえるんだよ〜。すごいでしょ〜。お母さんもお父さん  
もず〜っと携帯ダメって言ってたのに、びっくりだよ。勉強は嫌いだけどね、携帯欲しいから  
ね、がんばるよ」

演者「携帯買ってもらえたら、勉強は～～？」

息子「するわけないじゃん。携帯買ってもらうためにしてるんだよ。勉強なんかだいきらいだもん」

演者「あらっ、そうなんだあ～～」

「賞」にも、望ましくない効果があります。

**【賞】の望ましくない効果**

- ①「賞」がないと勉強しなくなってしまう
- ②「賞」が次第にエスカレートする
- ③ 結果ばかり重視して安易な手段をとったり、結果が悪そうだと投げ出してしまったりする  
などなど

「①賞がないと勉強をしなくなってしまう」。賞も効果は持続しません。ずっと賞が必要です。そうすると…「②賞は次第にエスカレートする」かもしれません。それに…「③結果ばかり重視して、安易な手段をとったり、結果が悪そうだと投げ出してしまったりする」ことも起こりがちです。

**<賞・罰の問題>**

子どもの心の中  
～勉強が嫌い・したくないという気持ち～  
が変わらない

そして、このように「賞」や「罰」を使ったのでは、何より、子どもの心の中、勉強が嫌い、したくないという気持ちが変わりません。それが一番の問題だと思います。

**勉強をする子に勇気づけるには②**

- 賞罰を使わない
- 子どもの心の中に、適切な信念を育てる  
～社会に貢献できる大人になるために勉強しよう～

勉強をする子に勇気づけるには、「賞」や「罰」を使うのではなくて、子どもの心の中に適切な信念～社会に貢献できる大人になるために勉強しよう～を育てたいのです。目先の行動を変えるのではなくて、賞や罰がなくても、自ら進んで自分に必要な勉強をしていく人に育てて欲しいのです。

信念が育てば行動はついてきます。そしてその行動は持続します。最初にお話をした「勉強の

目的を確認する」ということは、この信念を育てるうえでも必要なことです。

子どもは、みんな最初は勉強したいという気持ちを持っていると思うんです。勉強って、世界を知ることじゃないかと私は思います。世界に対する興味や関心を満足させてくれて、もっと知りたい～とワクワクするようなもの。ご自分の小さい頃のことを思い出してみてください。小さい頃って、色んなことに興味津々で、色んなことにチャレンジをしたり、イタズラを試してみたり、お母さんを「あれなあに？」と質問責めにしたり、世界への興味にあふれていなかったでしょうか。小学校にあがるときも、お勉強にワクワクして入学しませんでしたか？

子どもの中には本来、「勉強したい」「知りたい」という気持ちがあるはずだと思うんです。この気持ちが、勉強が難しくなったり、興味のない科目も勉強しなくてはならなかったり、テストでいい点がとれなかったりしているうちに、だんだん元気がなくなって、小さく小さくなってしまふことがあると思います。この、子どもに本来ある「学びたい」という気持ちを引き出して、応援して、元気になってもらいたいのです。

### 3. 子どもの中の「勉強したい」という気持ちに元気になってもらうには ～勇気づけ～

では、子どもの中の、「勉強したい」という気持ちに元気になってもらうには、どうしたらいいでしょう？

そのための方法が「勇気づけ」です。「勇気づけ」の方法をご紹介しますね。

勉強をする子に勇気づけるには ③

知らず知らずのうちにしてしまいがちな…  
「勇気くじき」をストップする

まずは、知らず知らずのうちにしてしまいがちな「勇気くじき」をストップすることです。

親はいつも子どものことを考えていると思います。子どもの為を思って厳しいことを言ったり、子どもを応援したくて口をすっぱくして注意をしたり、激励したり、そして、つい感情的になってしまったりするわけですね。でも、これは子どもの中に適切な信念が育つ方向だろうか？という目で冷静にチェックすると、実は意外なことに、そうっていない場合、勇気くじきになっている場合が結構あるみたいなんです。

子どもが勉強は大切だということが分かっている、勉強のやる気をなくしてしまっているとしたら、まずは家庭や学校など生活のどこかで勇気くじきが起こっているのかもしれないな～と思ってみて欲しいんです。

透くんとお母さんの会話を見てみましょう。皆さんは、透くんになったつもりで聞いてくださいね。ここは、透くんちのリビングです。

母（心配オーラ満載～）「透～。模擬試験の結果なんだけどさあ～。」

息子（勉強している。カッと振り向いて、また勉強にもどる）

母「数学は上がってるけど、英語がこれじゃあね〜。英語だけでも、家庭教師の先生に来てもらう？」

息子（無言…。嫌そう…。身体の向きを変え、母に背を向けて勉強をつづける）

母「ねえ透〜、聞いているの？ どうか〜お父さんもその方がいいって言ってたわよ〜」

息子「うるさいなあ〜、ほっといてよ、もう、無理だよ〜〜」（勉強をやめてしまう）

どうでしょう？

「勇気くじき」になっていないかを点検するための2つのポイントをご紹介します。

「勇気くじき」になっていないか  
点検するための 2つのチェックポイント

1. 私は能力がある
2. 人々は私の仲間だ  
…と子どもに感じてもらえるかな？

それは、この対応で「私は能力がある」「人々は私の仲間だ」と子どもに感じてもらえるかな？ ということです。

透くんに聞いてみましょうか？

演者「透くんどお？ “お母さんは私の仲間だ” って感じ、した？」

息子「う〜ん。心配してるのは分かるけど、“お母さんは仲間だ” はびみよ〜、なんか一人じゃ勉強できないって思われてるんだなって。お母さんは、勉強できない俺に満足してないんだなって感じ」

演者「“私は能力がある” は？」

息子「ああ〜俺ってダメだな〜どんだけやったって英語の成績なんか上がりそうにないなあ〜って落ち込む。“能力がある” なんて思えない」

演者「そっかあ……」

どうも、さらに勇気をくじいてしまっているみたいです。

お母さんにも聞いてみますね。

演者「お母さん、どんなことを願われていますか？」

母「もちろん、透のいいところを伸ばして、社会に役に立つ人に育ってほしいんです。透は、やればできる子だと思ってるんです。もうちょっと勉強すればできるはずなのによって。だから、透を勇気づけたいんです。もちろん、透に自分ですすんで勉強する気持ちになってもらうことが大事ってのは分かっているんですよ。でも今って、大事な時期だと思うんですよ。そう思うと、黙って見守るってのができなくて…」

どうすればいいでしょう？

勉強をする子に勇気づけるには ④

子どもの適切な側面を思い出し、  
そのことに注目する

勇気づけにはまず、お子さんの素敵なおところ、子どもの適切な側面を思い出し、そのことに注目することです。勉強に限らず、お子さんの良い面、適切な行動を見つけてください。できないことではなくて、できることです。この子、こういうとこ素敵だな～、ということ。一見、当たり前のように見えることの中にも、たくさん、その子の力が隠れています。そして、子どもが興味を持っていること、得意なことに注目してください。

勉強についても、できていること、よい方向に変化している部分を見つけてください。「そうそう、この子はできるんだ」「こんな素敵なお子なんだわ～」「面白い子だな～」そんな気持ちになってきたら、いい感じですよ。子どもの素敵なおところをコツコツ見付けて、それに感動していること。

こうしてみつけた子どもの力、勉強に限らずいろんな場面での力に注目して、子どもに伝えることが、勇気づけになります。そうすれば子どもには元気がうまれて、本当はもともとあつてしぼんでいただけの勉強したい気持ち、やる気が蘇ってくるはずですよ。

ひょっとしたら、子どもに言葉で伝えなくても、親が子どもの適切なおところに沢山意識を向けて、子どもを肯定的に見られるようになるだけで、お子さんは変わっていくかもしれません。「ちっとも勉強しないどうしようもない子」「ほんとうにできない子」「この子の将来が不安…」という気持ちでいると、それだけでその雰囲気、親の心の中はお子さんに伝わって、勇気くじきになっているかもしれません。「どうしようもないこの子に、何とか勉強させなくては」という気持ちで言葉がけをしたのでは、きつとうまくいかないと思うんです。まずは、お子さんの素敵なおところを思い出し、注目してください。

透くんとお母さんの様子を見てみましょう。また、みなさんは透くんになって聞いてくださいね。

息子（パソコンでゲームをしている）

母（慌てて帰ってきて）「わあ～雨降ってきちゃった～。洗濯物、びしょぬれだわ～きつと～」

息子「あ～～洗濯物なら、入れたよ～」

母「わあ取り込んでくれたの？ ありがとう～。助かったわあ～。透がいてくれてよかった～」

息子「今度から、天気予報見ながら出掛けた方がいいよ。携帯で、天気予報すぐ見られるでしょ」

母「は～い。そうだね～」

別の日の様子です。

母「トオル～、ちょっとパソコンのこと教えてくれない？ PTAのお知らせ作ってね、ここに写真入れたいのよ～。トオルさあ、前になんか、カッコいいの作ってたよねえ」

息子「写真入れるの？ かんたんだよ～。どれ～？ あ～これ入れたいのね、こうやって～、こうやって～、ほら、こうだよ」

母「わ～できた～いい感じ！ ありがとう。ねえねえどうやって覚えたの？」



息子「え〜、お母さんが買ってきたこの本、これ見て、いろいろやってたら出来たよ。最初はちょっと大変だったけどね」

母「そうなの〜？ お母さんもその本見たんだけど、わかんなかったよ〜」

息子「パソコンは好きだからね〜。調べるのも楽しい。こんな勉強ならするんだけどな〜」

母「ふ〜ん（うれしそうに）」

息子「プログラマーとか、目指しちゃうのかな」

母「ふ〜ん、向いてるのかもね〜」（さらっと）

適切な側面に注目する。そうすると、勇気づけになるみたいですね。

#### 4. 勉強について勇気づける

それでは最後に、勉強について直接、勇気づけをしていく場合のポイントについてお話します。このあたりは、アドラー心理学の育児学習プログラムで詳しく学ぶことができますが、少しだけ紹介しておきますね。

##### 1) 成果ではなく、過程を重視する

× 100点じゃない、すごいわね〜。えらいね〜。

○ 100点だね、努力したんだね。どんな風に勉強したの？

##### 2) 欠点（できていないところ）ではなく、すでに達成できている成果（できているところ）を指摘する

× 「算数はいいけど、国語がちょっとね〜、あと少しだね」

○ 「この前に比べると進歩したね」「この部分はよくできているね」

##### 3) 失敗を受け容れる

× 「まあ20点なんて〜。ほら言ったでしょ、やっぱり勉強しないからじゃない」

○ 「20点だったのね……。そっかあ〜。紅茶でも飲む？」

##### 4) 成長を重視する

× 「前よりは上がったけど、60点じゃあね。もっと頑張らないと」

○ 「テストの英作文のどこ、前より結構書けるようになったんじゃない？」

などなど…です。

ごらんのとおり、「勇気づける」というのは、「褒める」ということとはちょっと違います。「褒める」というのは、子どもが適切な行動をした時にしかできませんよね。よい成績をとってきたとか、勉強しているとか。そうではなくて、うまくいった時も、うまくいかない時も勇気づけたいのです。

正解は一つではないですし、どんな語りかけがお子さんにフィットするかはかなり工夫が必要です。よ〜く相手の反応を見ながら、伝え方や伝えるタイミングを工夫してください。先ほどご紹介をした点検のポイント「私は能力がある」「人々は私の仲間だ」を意識しながら、工夫してみてください。

それでは最後に、今日ご紹介したやり方を振り返っておきますね。

- 「勉強をする子に勇気づける」には
- ①勉強の目的～社会に貢献できる大人になるために勉強する～  
について、親子で話し合う
  - ②賞罰を使わず、子どもの内側に適切な信念を育てる
  - ③「勇気くじき」をストップする
  - ④子どもの適切な側面を思い出し、注目する
  - ⑤勉強について勇気づける（勇気づけのポイント）  
～褒めることとは違う～

この5つをご紹介しました。

今日お話をしたのは、アドラー心理学の持つ技法のほんの一部です。ご参考になれば嬉しいです。

ただ、慣れ親しんだやり方を変えるというのはとても大変なことです。ゆっくりと少しずつ、試してみてくださいね。もし、ひとりでは大変だったら、パセージというコースもありますよ。

### 教育講演という体験（感想と謝辞）

教育講演をさせていただき、私にとって3つ良いことがありました。まず1つは、アドラー心理学について改めて勉強をする機会をいただいたこと。「勉強をする子に勇気づける」という視点でパセージのテキストや野田先生のご著書、自助グループの機関誌などを見直し、原稿にすることで、分かっているつもりできちんと分かっていた部分に気付くことができました。2つめは、「私が伝えたいアドラー心理学とは何か」について考える機会をいただいたこと。あれもこれもお伝えしたいと膨らみすぎた原稿を整理する過程では、自分が一番伝えたいのは何なのかを考えることになりました。そして3つめは、自分の娘の適切な側面を思い出すことができたことです。台本を書くにあたり、以前にパセージに参加した時の課題シートなども読み直しました。そこには勇気くじきを繰り返す私の姿と、それにもめげず自分らしさを発揮する娘の素敵な姿がありました。もう子育ての時期は終わっていますが、これからも勇気づけをしながら娘を応援していきたい、アドラー心理学に出会えてよかったと改めて感じました。大変な仕事ではありましたが、実りの多い有り難い体験でした。機会をいただき感謝をしています。

また、この台本の作成にあたっては、東京アドラーフェラインのメンバーの方々にご協力をいただき、野田俊作先生のご指導をいただきました。総会での講演に向けては、当日の朝まで、チームリーダー澤田裕子さんの熱心なご指導をいただきました。そして村上さんはロールプレイで息子役を熱演してくださいました。一人ではとてもできない仕事で、協力を学ぶよい機会でした。この場をお借りして、改めてお礼を申し上げます。本当に、ありがとうございました。

[スライドは、実際に使用したものを一部省略しています。スライドのファイル（パワーポイント）が必要な場合は角田までご連絡ください。]

※この教育講演プログラムは著作権フリーとする。

このプログラムの使用・転載・改変は自由であるが、使用・転載・改変する責任はすべて使用者にあって、制作者はいっさいの責任を負わない。

日本アドラー心理学会

#### 更新履歴

2013年9月1日 アドレリアン掲載号より転載